

グリーンメール



平成30年度
Vol.1

鳴門藍住農業支援センターだより

〒771-1220 徳島県板野郡藍住町東中富字舩傍 2 9

TEL : 088-692-2515 FAX : 088-692-0355

http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto_aizumi/



ドイツU-18柔道チームが梨狩りを体験しました (2017年8月)

「とくしま安2 GAP優秀認定」を取得している藍住町の濱惣果樹園で、ドイツのU-18柔道ナショナルチームが旬の梨狩りを行いました。

梨を試食してもらおうと「ドイツの梨と全く違う！とてもおいしい」、「ドイツにも是非輸出してほしい」と、とても感動していました。

園主の濱さんはベトナムへ梨の輸出をしており、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックで、たくさんの国の人に食べてもらいたい」と語っていました。

※とくしま安2 GAP優秀認定は東京オリンピック・パラリンピックのガイドラインに準拠しています。

ご挨拶

鳴門藍住農業支援センター 所長 守田 宏美

鳴門藍住農業支援センター所長の守田です。

この度の定期異動で、新規採用1名を含む6名の職員が着任いたしました。新たな体制のもと、なお一層の地域農業振興や、農業人材の育成確保に取り組んで参りますので、よろしくをお願いいたします。

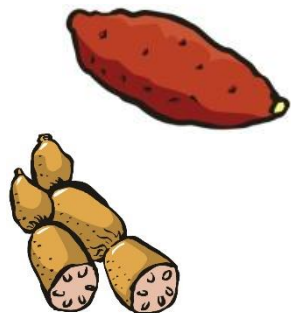
さて、当農業支援センター管内は、なると金時を始め、にんじん、れんこん、なしなど本県を代表するブランド品目を抱える産地であり、収益性の高い農業が展開されております。

一方で、担い手の高齢化による、労働力不足や、栽培技術の新規就農者への継承等が課題となっています。さらに、日EU・EPA及びTPP11協定の大筋合意により、大規模な海外農業との競争の時代を迎えようとしています。

県でも、このような状況を踏まえ、経営感覚に優れ、自らの判断で、消費者・実需者ニーズの変化等に対応できる「チャレンジする農業経営者」が活躍できる環境を整備し、その潜在力を発揮させるために、IoTやAI等の先端技術を活用し、省力化や高品質生産を可能にするスマート農業の実現や、6次産業化や輸出促進の取り組みを推進しているところです。

当農業支援センターにおきましても、ブランド園芸産地の更なる生産性向上や経営感覚に優れた次世代を担う「人材育成」に、重点課題として取り組むとともに、今後とも地域の多様なニーズに迅速かつ適確に対応して参りたいと考えておりますので、引き続き、御協力・御支援くださいますようお願い申し上げます。

平成30年度鳴門藍住農業支援センターの新体制を紹介します

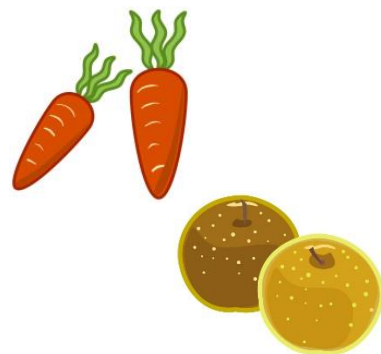


所長

守田宏美

(転入)

支援センターの総括



農業支援第二担当

青年農業者や認定農業者の育成支援。
補助事業、技術普及に取り組んでいます。



課長補佐 小牧和仁

農業支援第二担当の総括、農業者、農地中間管理事業、作物・野菜・担い手、藍住町担当

ブランド推進担当

ブランド品目の振興、鳥獣害被害防止技術支援、GAPの推進などに取り組んでいます。



課長補佐 広田恵介

ブランド推進担当総括
砂地畑対策、野菜(カンショ、ダイコン、ラッキョウ)



課長補佐

所 洋志

(転入)

次世代人材投資、雇用労働力確保対策、鳥獣被害防止対策、板野町担当



課長補佐

岡島博道

振興協議会、認定農業者、制度金融、畜産・経営、松茂町担当



主任

中野裕美

女性農業者の育成、野菜、鳴門市担当



主査兼係長

佐藤 泰三

(転入)

鳥獣害被害防止技術支援、農業指導班、野菜(レンコン)



主査兼係長

山本善太

(転入)

産地パワーアップ事業、環境保全型直接支払い、青年農業者、上板町



主査兼係長
杉本和之

経営所得安定対策、農作物気象災害、野菜、北島町担当



主任

宮本ちはる

(転入)

六次産業化、食育・地産地消、農地利用集積事業、経営、野菜



主任

安淵潤一

ブランド戦略関係事業、作物・野菜(ニンジン、ブロッコリー)



主任

山下ルミ

農山漁村未来創造事業、経営体育成支援事業、強い農業づくり交付金、野菜



主事

折原 夏奈

(新採)

肥料・農薬展示ほ、普及情報、野菜・果樹・花き



主任主事

小川実可子

GAP、環境保全型農業(エコファーマー等)、果樹・花き・野菜(ネギ)

5月・6月の栽培管理

水 稲＜水管理の基本とスクミリンゴガイ対策＞

基本的な水管理は、植え付け後しばらくは深水、活着したら浅水、3週間目頃から間断かん水、1株当たり18～20本の茎数が確保できたら、小さなひびが入る程度を目安に中干しを行います。

水田用除草剤の散布後に田面が露出すると効果が落ちます。代かき時には場の均平に努め、1週間程度は田面が露出しないよう管理しましょう。ジャンボ剤散布日のみ水深5～6cmとし、薬剤が十分拡散するようにしましょう。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害が大きい場合は、田植後3週間頃までの対策が重要です。除草剤散布時等を除き、貝が稲を水中に引き込めないように水深4cm以下で管理するとともに、発生が認められたらスクミノン等登録農薬をすぐに散布しましょう。



れんこん ＜アブラムシと雑草の対策を行いましょう＞

○追肥

立葉2～3葉目から徐々に肥料の吸収が高まっていきます。生育状況や葉色を見ながら、追肥を行いましょう。

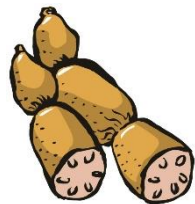
○アブラムシの防除

浮き葉や立葉1～2葉期にアブラムシが多数寄生すると、生育が抑制され地下茎の肥大が阻害されるため、発生初期の防除に努めましょう。

畦畔の雑草やほ場内のウキクサ、コナギなどの水生植物上でアブラムシが増殖するので除草に努めましょう。

○イネネクイハムシの防除

雑草にも産卵するので、周辺の雑草を除去ましょう。成虫発生期の6月下旬に、トレボン粒剤を散布ましょう。



かんしょ ＜育苗、ほ場管理について＞

○育苗管理

気温が上昇するため、ハウス内はさらに高温多湿条件となります。焼けを防ぐため、換気を十分に行ってください。

アブラムシ類、ハダニ類等の発生に十分注意し、本ばに持ち込まないよう適切に防除を行ってください。

○ほ場管理

ハイバリアーやおせんぼ等の難透過性フィルムを使用している場合、水分が多いほ場ではクロルピクリンが残っている場合があります。定植は、においてクロルピクリンが残っていないことを確認してから行いましょう。

気温が高くなるにつれ、アブラムシ類やダニ類が発生します。アブラムシ類は横縞症の媒介も行うので、見つけ次第防除して下さい。

乾燥しているほ場では、スプリンクラー等によりかん水を行ってください。定植後40日頃までは、土壌水分が多めの方が芋の収量や品質が良くなります。

1回目の追肥は植え付け後40～50日が目安です。ただ、量が多すぎると過繁茂となり芋の品質が落ちます。また、急激な肥効も芋のワレの原因につながりますので注意して下さい。



なし <摘果と防除について>

○今年の豊水の満開は4月2日、幸水は4月6日と例年よりも1週間ほど早い開花となりました。

○予備摘果は満開から40日までを目安に行いましょう。予備摘果は、生理落果終了後早めに行います。原則として、1花そう1果（たて長で形の良い3～5番果）を残し、葉のない花そうは全部摘果してください。最終摘果は6月中旬までに行い、結果数は幸水9,000果/10a、豊水11,000果/10a以内としてください。

○防除も重要な時期です。雨天で散布できなかった薬剤は雨後にしっかり散布しましょう。

○天気が良い日が続くと土壌が乾燥しますので、かん水を適時行いましょう。



柑橘類 <訪花昆虫の防除と摘果>

○開花期に訪花昆虫（ハナムグリ、ケシキスイ等）が吸蜜に来ると、雌しべの根本の果実の基が傷つき、商品性を損ないます。開花初期と開花盛期が防除適期です。

○落弁期にこまめに花弁を振り落として、灰色かび病の発生を防ぎましょう。落弁期に雨が降ると発生を助長するので、薬剤散布による防除を行ってください。

○不知火については、6月中に仕上げ摘果を終わらせておきましょう。不知火の摘果基準は、120葉に1果とします。



その他果樹管理

○5月上旬からカイガラムシ類の防除適期です。

○ロウムシは7月からの防除になります。発生が多い圃場は手で落とすなどの対策を行ってください。



今年も春ニンジンの出荷が始まっています。4月12日は「よ・い・に・んじん」の語呂合わせで、「徳島県にんじんの日」でした。藍住町の佐野さんの圃場ではヒバリがさえずる中、収穫作業を行っていました。



今作は10月の台風等による播き遅れや寒波の影響から生育が遅れ、例年より小ぶりなサイズのニンジンが多いようですが、4月は晴れ間が多く、収穫は順調に進んでいます。皆さんが忙しそうに作業している風景が広がっていました。

にんじんの出荷が最盛期です！（2018年4月）

4月10日～6月10日の期間は『春の農作業安全運動月間』です！作業は一人でせず、周りに注意し、声を掛け合いながら、事故防止に努めましょう。



Facebookはじめました。

鳴門藍住農業支援センター

検索